

2023年10月6日

蔵王ジオパーク推進協議会
会長 村上 英人 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第49回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2023年9月29日に行われた第49回日本ジオパーク委員会において、貴地域の日本ジオパーク認定は保留となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。つきましては、後述するⅠおよびⅡの課題に対応後、2年以内にその実績を日本ジオパーク委員会に報告してください。

【総評】

蔵王地域は、3つの火山とそれによる豊富な水の恵みと活用、信仰の歴史、山麓部に発達した湯治場を有し、酪農業をはじめとする様々な事業者や観光ガイドが地域の魅力を発信し続けてきており、それらの特色に基づく地質、自然、文化サイトが設定され、ジオパークとしての素材は整っていると評価される。その一方、協議会全体としてジオパークに何を期待し実現したいのかの統一感を欠いており、具体的な戦略及びジオストーリーは十分とはいえない。特に、地域のジオパーク活動のアイデンティティともなるべきロゴマークがまだ作成されておらず、拠点施設も未整備であり、ジオパークとしての可視性が低い。また、地元事業者や農業生産者との実質的な連携が始まってはいるものの、パートナーシップ協定が進んでいないなど、全体としてジオパーク申請に至るまでの準備不足が否めない。

以上のことから、今回の申請は保留とする。以下に記述する今後の課題や改善すべき点を考慮し、近隣の日本ジオパークとも連携をとりながら、ジオパークとしての準備をさらに推し進められることを期待する。

【優れている点】

- ・本年度になって新たに地球科学の専門員を雇用する等、ジオパークを推進する体制強化に向けた積極的な動きがあった。
- ・「かざして案内」というAI画像認識クラウドサービスを導入しており、看板の乱立防止、破損等の維持管理、情報更新の即時性の解消にも繋がるなどの可能性を秘めている。
- ・蔵王町ではこれまで酪農業をはじめとする様々な事業者や観光ガイドが地域の魅力を発信し続けてきており、ジオパークとしての発展の可能性を感じさせる。
- ・蔵王町の教育委員会が中心となって、ジオパーク要素を取り入れた学校教育が実施されてきている。また、蔵王高校ではクラブ・ジオパークが中心となり、地域の大地の恵みを伝える活動が行われ、「2022火山砂防フォーラム in 蔵王」では、高校生によるジオツアーが実践されるなど、積極的な活動を実施している。
- ・蔵王山山頂部のアオモリトドマツの枯損被害への対応や、地元企業が蔵王町と連携してゼ

ロカーボンへの取り組みを行っているなど、地球環境を守る活動がすでに実施されており、ジオパークとしての地球的課題解決達成に向けた取り組みが期待される。

【今後の課題・改善すべき点】

I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. ジオパークのアイデンティティであるロゴマークが未作成なので、早急に作成し、それを活用した可視性の向上と地域の一体感醸成が必要である。
2. 拠点施設、インフォメーションセンター施設の整備は不十分で、これらの施設を蔵王ジオパークとしてどのように位置づけ、どのような機能を持たせようとしているのかを十分に検討した上で整備に着手することが必要である。
3. 蔵王国定公園の東から南側を取り巻くように蔵王高原県立自然公園がある。そのため、これらの国定公園や県立自然公園を管理する宮城県自然保護課の担当者を推進協議会メンバーに含めるのが好ましい。

II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

4. 事務局主導のもと、ジオパークで何をどのように実現していくのかを示した、統一感の持てる中長期的な戦略的管理運営計画の策定が必要である。また、教育委員会としてではなく、ジオパークとしての教育戦略の作成も必要である。
5. 解説看板に、多くの内容を盛り込みすぎているので、伝えたいポイントを明確にし、簡潔でわかりやすい内容へ改訂すること。また、蔵王山は活火山であることから、火山防災に関する説明を盛り込んだ解説看板類の整備が必要である。さらに、全てのエリアマップにジオパーク構想エリアの領域界を明示し、訪問者がガイドなしでもジオストーリーを理解し楽しんでもらえるよう、看板やパンフレット類の整備が必要である。
6. 複数あるパートナー候補と公式の協定を結ぶとともに、パートナーシップが蔵王ジオパークの持続可能な発展にどう貢献するのかについて十分な対話が必要である。
7. 地質サイトの保全・整備状況の情報をサイトカルテとして整理し、サイトの価値と利用状況に照らし合わせた持続的なサイト保全・管理計画を定めることが必要である。

III 中長期的に解決すべき事項

8. ツーリズムによる持続可能な開発の実現に向け、ジオツーリズムを担っていく「ガイドの会」の拠点の設置、既存のガイド団体同士の連携強化、ガイドの質の維持・向上への取り組みが必要である。
9. 既存の「蔵王ブランド」を生かした持続可能な開発の在り方について、観光関係団体と十分に協議・共有するとともに、導入予定の「蔵王ジオパーク認定商品制度」との差別化あるいは連携など共通認識をもつことが必要である。
10. 現状のエリア境界は、ユネスコが勧める自治体境界を利用したものとは相反するため、将来的な周辺自治体への領域拡大も視野に入れつつ、住民が納得できるエリア設定に向け協議会で十分な話し合いを続けること。

以上